

証券コード：3370

平成26年6月12日

株 主 各 位

北海道苫小牧市晴海町32番地
株式会社フジタコーポレーション
代表取締役社長 藤 田 博 章

第36回定時株主総会招集ご通知

拝啓 日頃より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当社第36回定時株主総会を下記により開催いたしますので、ご出席くださいますようお願い申し上げます。

なお、当日ご出席願えない場合には、書面によって議決権を行使することができますので、お手数ながら後記の株主総会参考書類をご検討のうえ、同封の議決権行使書用紙に議案に対する賛否をご表示いただき、平成26年6月26日(木曜日)午後5時までに到着するようお願い申し上げます。

敬 具

記

1. 日 時 平成26年6月27日(金曜日) 午前10時
2. 場 所 北海道苫小牧市表町四丁目3番1号
グランドホテルニュー王子 2階 若草の間
(末尾の会場ご案内図をご参照ください)
3. 目的事項
報告事項 第36期(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)
事業報告及び計算書類報告の件

決議事項

- 第1号議案 定款一部変更の件
- 第2号議案 取締役4名選任の件
- 第3号議案 監査役1名選任の件
- 第4号議案 補欠監査役1名選任の件

以 上

1. 当日ご出席の際は、お手数ながら同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出くださいますようお願い申し上げます。
2. 株主総会参考書類並びに事業報告及び計算書類の内容に修正が生じた場合は、インターネット上の当社ウェブサイト(アドレス <http://www.fujitacorp.co.jp>)に掲載させていただきます。

(提供書面)

事業報告

(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)

1. 会社の現況

(1) 当事業年度の事業の状況

① 事業の経過及び成果

当事業年度におけるわが国経済は、政府の経済政策や金融政策により、円安・株価高が進み、景気の緩やかな回復基調で推移しました。しかし、消費税増税に伴う駆け込み需要の反動による購買力低下が懸念されるなど、先行き不透明な状況で推移しております。

このような状況のもと、当社は不採算店舗の閉店や不採算事業からの撤退を進め、次年度以降の経営安定化のための経営資源及び人材の集中に努めてまいりました。

当事業年度における店舗展開におきましては、10店舗の閉店、2店舗の譲渡、2店舗を譲受により出店し、当事業年度末における当社の展開業態は20業態、稼働店舗数は96店舗（前事業年度末、23業態106店舗）となりました。

また、当社の物販部門の柱でありましたT S U T A Y A店舗及びB O O K ・ N E T ・ O N Eのフランチャイズ本部事業の譲渡等により、売上高6,377百万円（前事業年度比8.7%減）、販売費及び一般管理費は3,868百万円（同9.0%減）となりました。

この結果、営業利益80百万円（同38.6%減）、経常損失3百万円（前事業年度、経常利益40百万円）となりました。特別利益に事業譲渡益87百万円等を計上したものの、特別損失にたな卸資産評価損174百万円、減損損失106百万円等を計上したことにより、当期純損失350百万円（前事業年度、当期純利益20百万円）となりました。

なお、当事業年度において350百万円の当期純損失を計上した結果、純資産額が21百万円となりました。また、有利子負債は4,450百万円と総資産の86.7%を占め、手元流動性に比して高水準にあります。このため、取引金融機関に対し、長期借入金元本の返済条件変更を要請しております。こうした状況により、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しておりますが、大幅な不採算店舗の処理、配置転換等による効率性を追求した人件費の削減並びに利益部門への新規投資等を骨子とした経営改善計画を策定し、より安定的に営業利益及び営業キャッシュ・フローを獲得し得る体制を確実に構築してまいります。また、資金面におきましても、主力取引銀行の支援のもと、取引金融機関に対し、平成27年5月までの長期借入金元本の返済条件変更を要請し、主な取引金融機関から既に同意を頂いていること等から、継続企業の前提に関する不確実性は認められません。

当社の事業であります飲食業及び小売業は、長期的な見通しを踏まえた事業展開が必要であり、そのためには安定的な経営基盤の確保と財務体質の強化を図ることが重要な課題であると考えております。収益体質の強化・充実と今後の事業展開に備えるために内部留保に努めるとともに、株主の皆様への利益還元として業績に応じた配当を実施することを基本方針としております。誠に遺憾ながら、当期の期末配当につきましては、業績及び財務体質の強化等を総合的に勘案し、株主の皆様には誠に申し訳ございませんが、無配とさせていただきますと存じます。今後、復配に向けて鋭意努力してまいります。

セグメント別の状況は次のとおりであります。

〈飲食部門〉

当事業年度の飲食部門におきましては、フランチャイジー事業はフランチャイズ本部主導による新商品の投入や販売促進活動を、オリジナルブランド事業は季節限定商品を開発・販売し、顧客の来店頻度向上に努めてまいりました。

飲食部門の店舗展開におきましては、7店舗を閉店したことにより、当事業年度末の店舗数は前事業年度末より7店舗減少し、72店舗となりました。この結果、当事業年度の売上高は4,507百万円（前事業年度比7.0%減）、セグメント利益95百万円（同72.5%増）となりました。

〈物販部門〉

当事業年度の物販部門におきましては、フランチャイジー事業は飲食部門と同様、フランチャイズ本部主導による販売促進活動を、オリジナルブランド事業は新たなジャンルの商品の取扱いを開始したほか、前事業年度に引き続きインターネットでの通信販売を積極的に行って、冬期間や閑散期の収益確保を目指してまいりました。

物販部門の店舗展開におきましては、2店舗の譲受による出店、2店舗の譲渡並びに3店舗を閉店し、当事業年度末の店舗数は前事業年度末に比べて3店舗減少し、24店舗となりました。これまで当社の物販部門の主力事業でありましたT S U T A Y A店舗及びBOOK・NET・ONEのフランチャイズ本部事業の譲渡等により、当事業年度の売上高は1,870百万円（前事業年度比12.7%減）、セグメント損失15百万円（前事業年度、セグメント利益75百万円）となりました。

<セグメント別売上高>

セグメントの名称		当事業年度 自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日		前事業年度 自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日		前 期 比 率 増 減
		売 上	構成比	売 上	構成比	
飲 食 部 門	フランチャイズ事業	3,847,930千円	60.3%	4,205,885千円	60.2%	△8.5%
	オリジナルブランド事業	659,261	10.3	638,598	9.1	3.2
	小 計	4,507,191	70.7	4,844,484	69.3	△7.0
物 販 部 門	フランチャイズ事業	1,063,653	16.7	1,269,319	18.2	△16.2
	オリジナルブランド事業	806,927	12.7	872,490	12.5	△7.5
	小 計	1,870,581	29.3	2,141,809	30.7	△12.7
合 計		6,377,772	100.0	6,986,294	100.0	△8.7

(注) セグメント区分は(4)主要な事業内容と同様であります。

<当事業年度における出店の状況>

セグメントの名称		ブ ラ ン ド 名 称	出 店 数
物 販 部 門	オリジナルブランド事業	B O O K ・ N E T ・ O N E	1 店 舗
		N E T ・ O N E	1 店 舗
合 計			2 店 舗

② 設備投資の状況

当期中の設備投資総額123,895千円であり、主な設備投資は既存店舗の改装及び設備の入替等に係るものであります。

③ 資金調達の状況

金融機関からの借入残高は3,971,766千円となり前期末に比べ608,704千円減少いたしました。

④ 事業の譲渡、吸収分割又は新設分割の状況

平成26年3月31日を譲渡期日として、当社がフランチャイザーとして事業展開する「BOOK・NET・ONE」本部事業を株式会社海晃に譲渡いたしました。

(2) 直前3事業年度の財産及び損益の状況

区 分	第33期 (平成23年3月期)	第34期 (平成24年3月期)	第35期 (平成25年3月期)	第36期 (当事業年度) (平成26年3月期)
売 上 高(千円)	8,311,643	8,189,110	6,986,294	6,377,772
経常利益又は経常損失(△)(千円)	9,026	6,257	40,463	△3,542
当期純利益又は当期純損失(△)(千円)	11,151	△124,036	20,664	△350,469
1株当たり当期純利益 又は1株当たり当期純損失(△) (円)	1,250.72	△13,911.72	23.18	△393.08
総 資 産(千円)	6,654,087	6,529,740	6,307,983	5,135,408
純 資 産(千円)	475,251	354,464	373,175	21,108
1株当たり純資産額(円)	53,303.20	39,755.97	418.55	23.67

(注) 1. 1株当たり当期純利益は期中平均発行済株式総数により、1株当たり純資産額は期末発行済株式総数により算出しております。

2. 当社は平成25年9月6日開催の取締役会において、平成25年10月1日付で株式1株につき100株の割合をもって株式分割を行っておりますが、前事業年度の期首に当該株式分割が行われたものと仮定して1株当たり当期純利益及び1株当たり純資産額を算定しております。

(3) 対処すべき課題

当社をとりまく環境は、消費税増税に伴う原材料及び水道光熱費をはじめとする販売管理費等の高騰が懸念され、引続き厳しい経営環境となることが予想されます。

このような状況のなか、当社は飲食部門・物販部門共に、収益性・立地その他の条件を総合的に判断して店舗展開を継続するとともに、不採算店舗の閉店又は業態変更の判断を的確に行って、経営資源の流出を最低限にとどめることにより、経常利益率の向上に努めてまいります。

事業部門別の対処すべき課題は、次のとおりであります。

部門共通

- ① 不採算店舗の閉店又は業態変更の早期判断及び黒字化対策の立案
- ② 次期を担う人材の育成

飲食部門

- ① 安全かつ安定した食材の調達
- ② 顧客ニーズに即したメニューの開発と効果的な販売促進活動

物販部門

- ① 顧客ニーズに応える商品展開と在庫管理
- ② 店頭販売以外の販路の拡大

株主各位のご期待に応えられるよう、経営基盤の充実・強化並びにさらなる企業価値の拡大に努める所存でございます。

株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

(4) 主要な事業内容（平成26年3月31日現在）

当社は飲食部門・物販部門をフランチャイジー事業並びにオリジナルブランド事業の両軸をもって展開しております。セグメント別の主要な商品、サービス等は以下のとおりであります。

① 飲食部門

ブランド名	主要な商品・サービス等
フランチャイジー事業	
ミスタードーナツ	ドーナツ・パイ・マフィン
モスバーガー	ハンバーガー
焼肉五苑	焼肉
ドトールコーヒーショップ	コーヒーの提供、コーヒー豆・器具の販売
はなまるうどん	讃岐うどん
暖中	中華料理
北前そば高田屋	そば居酒屋
情熱ホルモン	ホルモン
ベビーフェイスプラネット	バリ風カフェレストラン
米乃家	団子・たい焼き
ペッパーランチ	ハンバーグ・ステーキ
大阪王将	餃子
オリジナルブランド事業	
かつてん	かつ井・天井
キッチンワン	スパゲティ・ハンバーグ

② 物販部門

ブランド名	主要な商品・サービス等
フランチャイジー事業	
スペースクリエイト自遊空間	アミューズメント複合カフェ
セリア生活良品	100円ショップ
リラックス	リラクゼーションサロン
宝くじ	宝くじの売りさばき
オリジナルブランド事業	
BOOK・NET・ONE	本・ゲームソフト・CD等のリサイクルショップ
NET・ONE	家電・家具・衣料品等のリサイクルショップ

(注) 平成26年3月末日をもって、物販部門の「BOOK・NET・ONE」本部事業を譲渡しております。

(5) 主要な事業所（平成26年3月31日現在）

① 本 社 北海道苫小牧市晴海町32番地

② 店 舗

セグメントの名称		業 態 名 称	地 域	店舗数	
飲食部門	フランチャイズ事業	ミ ス タ ー ド ー ナ ツ	北海道地域 東北地域 関東地域	22店舗 11店舗 1店舗	
		モ ス バ ー ガ ー	北海道地域	5店舗	
		焼 肉 五 苑	北海道地域 東北地域	1店舗 1店舗	
		ドトールコーヒーショップ	東北地域	1店舗	
		は な ま る う ど ん	北海道地域 東北地域	1店舗 3店舗	
		暖 中	北海道地域 東北地域	1店舗 1店舗	
		北 前 そ ば 高 田 屋	北海道地域	1店舗	
		情 熱 ホ ル モ ン	東北地域	1店舗	
		ベビーフェイスプラネット	北海道地域	3店舗	
		米 乃 家	東北地域	1店舗	
		ペ ッ パ ー ラ ン チ	東北地域	2店舗	
	大 阪 王 将	北海道地域	1店舗		
	オリジナルブランド事業	か つ て ん	北海道地域 東北地域 関東地域	8店舗 3店舗 2店舗	
		キ ッ チ ン ワ ン	北海道地域	2店舗	
	物販部門	フランチャイズ事業	スペースクリエイト自遊空間	北海道地域 東北地域	6店舗 2店舗
			セ リ ア 生 活 良 品	北海道地域	1店舗
			リ ラ ッ ク ス	北海道地域	1店舗
			宝 く じ	北海道地域	3店舗
オリジナルブランド事業		BOOK・NET・ONE	北海道地域 東北地域	6店舗 2店舗	
		N E T ・ O N E	北海道地域	3店舗	

(注) 平成26年3月末日をもって、物販部門の「BOOK・NET・ONE」本部事業を譲渡しております。

(6) 使用人の状況（平成26年3月31日現在）

① 当社の使用人の状況

使用人数	前事業年度末比増減	平均年齢	平均勤続年数
125(704)名	10名減(88名減)	37.4歳	8.4年

② セグメント別の使用人の状況

セグメント区分	使用人数	前事業年度末比増減
飲食部門	83(540)名	6名減(37名減)
物販部門	15(152)名	3名減(49名減)
全社(共通)	27(12)名	1名減(2名減)
合計	125(704)名	10名減(88名減)

(注) 1. 使用人数が前事業年度末に比べて減少しておりますが、その主な理由は、大規模店舗の閉店及び業態変更によるものであります。

2. 使用人数は就業員数であり、臨時雇用者数は総労働時間を1日7.5時間/人(当社就業規則による実働時間)で換算し、()内に年間の平均人員を外数で記載しております。

(7) 主要な借入先の状況（平成26年3月31日現在）

借入先	借入金残高
株式会社北海道銀行	1,653,061千円
株式会社北洋銀行	601,690
株式会社商工組合中央金庫	575,300
株式会社日本政策投資銀行	293,940
株式会社七十七銀行	210,000
株式会社みずほ銀行	200,007
苫小牧信用金庫	145,330

2. 株式の状況（平成26年3月31日現在）

- (1) 発行可能株式総数 3,462,000株
- (2) 発行済株式の総数 891,600株
- (3) 株主数 454名（前事業年度末比46名減）
- (4) 大株主（上位10名）

株 主 名	持 株 数	持 株 比 率
藤 田 博 章	168,700株	18.92%
孫 仲 華	80,700	9.05
フジタコーポレーション従業員持株会	56,600	6.35
藤 田 健 次 郎	43,900	4.92
藤 田 竜 太 郎	43,600	4.89
福 室 太 朗	37,500	4.21
フジタコーポレーション役員持株会	25,700	2.88
フジタコーポレーション取引先持株会	25,300	2.84
極 東 証 券 株 式 会 社	22,500	2.52
株 式 会 社 ラ ッ ク ラ ン ド	22,500	2.52

- (注) 1. 自己株式は所有しておりません。
2. 当社は平成25年10月1日付にて普通株式1株につき100株の割合をもって株式分割を行い、単元株式数を100株とする単元株制度を導入いたしました。

3. 新株予約権等の状況

- (1) 当事業年度末日において当社役員が保有している職務執行の対価として交付された新株予約権の状況
該当事項はありません。
- (2) 当事業年度中に職務執行の対価として使用人等に対し交付された新株予約権の状況
該当事項はありません。
- (3) その他の新株予約権等に関する重要な事項
該当事項はありません。

4. 会社役員 の 状 況

(1) 取締役及び監査役の状況（平成26年3月31日現在）

会社における地位	氏 名	担当及び重要な兼職の状況
代表取締役社長	藤田 博章	株式会社フジックス代表取締役社長 フジタ産業株式会社取締役
取締役副社長	藤田健次郎	フジタ産業株式会社代表取締役
専務取締役	清水 清作	経理・総務管掌
常務取締役	上野 哲	飲食部門管掌
取締役	山本 智之	総務部長
常勤監査役	藤田 俊樹	
監 査 役	丹治 敏男	丹治林業株式会社代表取締役
	小柳 典子	ハーバー株式会社代表取締役

- (注) 1. 監査役丹治敏男氏及び小柳典子氏は社外監査役であります。
 2. 平成25年6月27日付で取締役の地位を以下のとおり変更しております。
 取締役藤田健次郎氏は取締役から取締役副社長に就任いたしました。
 3. 当社は、監査役丹治敏男氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。

(2) 取締役及び監査役の報酬等

区 分	支 給 人 員	支 給 額
取 締 役	4名	34,415千円
（うち社外取締役）	(-)	(-)
監 査 役	3名	5,400千円
（うち社外監査役）	(2)	(2,400)
合 計	7名	39,815千円
（うち社外役員）	(2)	(2,400)

- (注) 1. 取締役の支給額には使用人兼務取締役の使用人分給与は含まれておりません。
 2. 取締役の報酬限度額は、平成14年6月25日開催の第24回定時株主総会において月額12,000千円以内（ただし使用人分給与は含まない。）と決議いたしております。
 3. 監査役の報酬限度額は、平成14年6月25日開催の第24回定時株主総会において月額1,200千円以内と決議いたしております。
 4. 取締役の支給人員は、無報酬の取締役1名を除いております。

(3) 社外役員に関する事項

① 取締役

該当事項はありません。

② 監査役

イ. 他の法人等の重要な兼職の状況及び当社と当該他の法人等との関係

丹治敏男氏は丹治林業株式会社の代表取締役であります。丹治林業株式会社と当社との間には、特別の関係はありません。

小柳典子氏はハーバー株式会社の代表取締役であります。ハーバー株式会社と当社との間には、特別の関係はありません。

ロ. 当事業年度中における主な活動状況

丹治敏男氏、小柳典子氏は当事業年度中に開催された取締役会21回中20回、監査役会20回全てに出席いたしました。

丹治敏男氏、小柳典子氏は経営者としての豊富な経験と観点から、適切な助言・提言等を適宜行っております。

5. 会計監査人の状況

(1) 名称

清明監査法人

(2) 報酬等の額

	報 酬 等 の 額
当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額	12,000千円
当社が会計監査人に支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計額	12,000千円

(注) 当社と会計監査人との間の監査契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の監査報酬等の額を明確に区分しておらず、実質的にも区分できませんので、当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額にはこれらの合計額を記載しております。

(3) 非監査業務の内容

該当事項はありません。

(4) 会計監査人の解任または不再任の決定の方針

取締役会は、会計監査人の職務の執行に支障がある場合等、その必要があると判断した場合は、監査役会の同意を得たうえで、または、監査役会の請求に基づいて、会計監査人の解任または不再任を株主総会の会議の目的とすることといたします。

監査役会は、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合は、監査役全員の同意に基づき、会計監査人を解任いたします。この場合、監査役会が選定した監査役は、解任後最初に招集される株主総会におきまして、会計監査人を解任した旨と解任の理由を報告いたします。

(5) 責任限定契約の内容の概要

該当事項はありません。

6. 業務の適正を確保するための体制

取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他会社の業務の適正を確保するための体制についての決定内容の概要は以下のとおりであります。

- (1) 取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制
 - ① 取締役及び使用人は、社訓・経営理念・社是に基づき、取締役及び使用人が法令、定款、各種規程並びに社会規範を遵守し、職務執行を行う。
 - ② 代表取締役直属部門として内部監査室を設置し、被監査部門からの独立性を確保し、各部門の業務執行及び法令遵守状況や体制が適切であるかを評価し、代表取締役社長及び監査役に報告する。
 - ③ 監査役会は内部監査室と連携を図りつつ、独自の立場で遵守状況や体制が適切であるかを監視し、問題があれば取締役会に報告する。
 - ④ 取締役会は問題点の把握と改善に努めるとともに、適宜コンプライアンス体制の見直しを図る。
- (2) 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制
 - ① 取締役の職務執行に係る記録文書、稟議書、その他の重要な情報については、文書又は電磁的媒体に記録し、法令及び文書取扱規程等に基づいて適切に保管及び管理する。
 - ② 取締役及び監査役は、必要に応じてこれらの文書等を閲覧できる。
- (3) 損失の危険の管理に関する規程その他の体制
 - ① 取締役会は、コンプライアンス、個人情報、セキュリティ及びシステムトラブル等のさまざまなリスクに対処するため、総務部の協力のもと社内規程を整備し、定期的に見直す。
 - ② 取締役は月1回開催される業績検討会議に出席し、月次業績のレビューと改善策に関する経営のリスクマネジメントについて協議を行い、各部門長へ周知する。
 - ③ リスク情報等については、各部門長より取締役及び監査役に対し報告を行う。個別のリスクに対しては、担当部署にて情報共有、マニュアルの作成・配布等を行い、組織横断的リスク状況の監視及び全社的対応は総務部が行う。
- (4) 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
 - ① 取締役会は月1回定期的に開催し、必要に応じて臨時取締役会を開催し、法令に定められた事項のほか、経営方針、中期経営計画及び年次予算を含めた経営目標の策定及び業務執行の監督等を行うとともに、効率かつ適正に職務執行が行われるための体制の維持・向上を図る。
 - ② 各部門においては、職務権限規程及び職務分掌規程に基づいて権限の移譲を行い、責任を明確にすることで、迅速性及び効率性を確保する。

- (5) 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項及び当該使用人の取締役からの独立性に関する事項
- ① 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合には、取締役会は監査役と協議のうえ、必要に応じて合理的な範囲で配置する。監査役が指定する補助すべき事項及び期間中は、当該使用人の人事異動、評価、処分等については、監査役会の意見を尊重したうえで、取締役からの独立性を確保する。
 - ② 監査役は内部監査部門の使用人に監査業務に必要な事項を指示することができる。指示を受けた内部監査部門の使用人はその指示に関して監査役に報告する。
- (6) 取締役及び使用人が監査役に報告するための体制、その他の監査役への報告に関する体制及びその他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制
- ① 取締役及び使用人は、法定の事項に加え、当社に重大な影響を及ぼすおそれのある事項、内部監査の実施状況、内部通報制度による通報状況、不正行為や重要な法令違反並びに定款違反行為、その他重要な事項等を監査役に報告する体制を整備し、監査役の情報収集・交換が適切に行えるように協力する。
 - ② 監査役は重要な意思決定のプロセスや業務の執行状況を把握するため、取締役会・経営会議等の重要な会議に出席するとともに、主要な稟議書、その他業務執行に関する重要な文書を閲覧し、取締役及び使用人に説明を求めることができる。
 - ③ 監査役は内部監査室と連携を図り、情報交換を行い、必要に応じて内部監査に立ち会うものとし、監査の実効性を確保する。
 - ④ 監査役は法律上の判断を必要とする場合は、随時顧問弁護士に専門的な立場からの助言を受け、会計監査業務については会計監査人に意見を求めるなど、必要な連携を図る。
- (7) 財務報告の適正性を確保するための体制の整備
- ① 当社は金融商品取引法の定めに従い、財務報告に係る内部統制の基本方針に基づき、内部監査室を中心に財務報告に係る内部統制の構築・評価を行う。
 - ② 健全な内部統制環境の構築に努めるとともに、財務報告の信頼性と適切性を確保するための有効かつ正当な評価を可能とする財務報告に係る内部統制システムを構築します。

(8) 反社会的勢力排除に向けた体制整備に関する事項

- ① 反社会的勢力とは一切の関係を持たないこと、反社会的勢力または反社会的勢力と関わりがあると思われる個人または企業からの不当な要求に対しては、法令及び社内規程に則り、毅然とした姿勢で組織的に対応し、断固として排除する。
- ② 当社の取引先が反社会的勢力と関わりがある個人、企業等であることが判明した場合には取引を解消する。
- ③ 反社会的勢力による不当要求が発生した場合は、適宜警察及び顧問弁護士等の外部機関と連携し、有事の際の協力体制を整備・維持する。

貸借対照表

(平成26年3月31日現在)

(単位：千円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
流 動 資 産	1,733,114	流 動 負 債	1,283,192
現金及び預金	895,241	買掛金	173,446
売掛金	232,080	短期借入金	594,496
商品及び製品	425,158	1年内返済予定の長期借入金	42,439
原材料及び貯蔵品	52,697	1年内償還予定の社債	118,600
前払費用	96,709	リース債務	13,652
前払金	100	未払金	212,096
その他	31,125	未払費用	12,851
固 定 資 産	3,398,127	未払法人税等	9,702
有 形 固 定 資 産	2,187,245	未払消費税等	19,216
建物	1,410,159	前受金	16,212
構築物	25,721	預り金	16,989
機械及び装置	1,669	資産除去債務	37,000
車両運搬具	332	店舗閉鎖損失引当金	16,488
工具、器具及び備品	142,912	固 定 負 債	3,831,107
土地	573,649	社債	308,500
リース資産	32,497	長期借入金	3,334,830
建設仮勘定	304	繰延税金負債	9,633
無 形 固 定 資 産	149,595	リース債務	21,525
借地権	140,000	長期未払金	35,985
商標権	233	長期預り金	113,885
ソフトウェア	2,845	資産除去債務	3,300
その他	6,516	その他	3,446
投資その他の資産	1,061,286	負 債 合 計	5,114,300
投資有価証券	220,478	純 資 産 の 部	
関係会社株式	25,000	株主資本	6,959
出資金	202	資本金	388,153
長期貸付金	28,179	資本剰余金	47,702
長期前払費用	29,231	資本準備金	47,702
敷金及び保証金	782,941	利益剰余金	△428,896
その他	251	その他利益剰余金	△428,896
貸倒引当金	△25,000	繰越利益剰余金	△428,896
繰 延 資 産	4,167	評価・換算差額等	14,148
社債発行費	4,167	その他有価証券評価差額金	17,595
資 産 合 計	5,135,408	繰延ヘッジ損益	△3,446
		純 資 産 合 計	21,108
		負 債 純 資 産 合 計	5,135,408

損益計算書

(平成25年4月1日から
平成26年3月31日まで)

(単位：千円)

科 目	金 額
売上高	6,377,772
売上原価	2,428,452
販売費及び一般管理費	3,949,320
営業外利益	3,868,874
営業外収入	80,445
受取利息	523
受取配当金	3,063
不動産賃貸料	170,108
受取保険金	1,476
その他	2,507
営業外費用	177,680
支払利息	106,698
社債利息	1,724
社債発行費償却	1,196
不動産賃貸原価	138,749
その他	13,300
経常損失	261,668
特別利益	3,542
投資有価証券売却益	1,817
固定資産売却益	1,369
事業譲渡益	87,628
資産除去債務戻入益	6,727
特別損失	97,542
固定資産売却損	36,327
固定資産除却損	13,556
店舗閉鎖損	67,320
減損	106,922
たな卸資産評価損	174,541
貸倒損	449
店舗閉鎖損失引当金繰入額	16,448
本社移転費用	414
税引前当期純損失	416,020
法人税、住民税及び事業税	322,020
法人税等調整額	9,631
法人税等調整額	18,817
当期純損失	28,448
当期純損失	350,469

株主資本等変動計算書

(平成25年4月1日から
平成26年3月31日まで)

(単位：千円)

	株 主 資 本					
	資 本 金	資 本 剰 余 金		利 益 剰 余 金		株 主 資 本 計
		資 本 準 備 金	資 本 剰 余 金 計	そ の 他 利 益 剰 余 金 計	利 益 剰 余 金 計	
平成25年4月1日 期首残高	388,153	47,702	47,702	△78,426	△78,426	357,428
事業年度中の変動額						
当期純損失(△)				△350,469	△350,469	△350,469
株主資本以外の項目の当事業年度中の変動額(純額)						—
事業年度中の変動額合計	—	—	—	△350,469	△350,469	△350,469
平成26年3月31日 期末残高	388,153	47,702	47,702	△428,896	△428,896	6,959

	評 価 ・ 換 算 差 額 等			純 資 産 計
	そ の 他 有 価 証券 差 額	繰 延 ヘ ッ ジ 損 益	評 価 ・ 換 算 差 額 計	
平成25年4月1日 期首残高	15,746	—	15,746	373,175
事業年度中の変動額				
当期純損失(△)				△350,469
株主資本以外の項目の当事業年度中の変動額(純額)	1,848	△3,446	△1,597	△1,597
事業年度中の変動額合計	1,848	△3,446	△1,597	△352,067
平成26年3月31日 期末残高	17,595	△3,446	14,148	21,108

【個別注記表】

1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

- | | |
|---------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (1) 資産の評価基準及び評価方法 | |
| ① 満期保有目的の債券 | 償却原価法（定額法） |
| ② 子会社株式及び関連会社株式 | 移動平均法による原価法 |
| ③ その他有価証券 | |
| ・時価のあるもの | 決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定） |
| ・時価のないもの | 移動平均法による原価法 |
| ④ デリバティブの評価基準及び評価方法 | |
| ・デリバティブ | 時価法 |
| ⑤ たな卸資産の評価基準及び評価方法 | |
| ・商 品 | 売価還元法による原価法及び移動平均法による原価法（リサイクル業態）（貸借対照表価額は、収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定） |
| ・原材料、貯蔵品 | 最終仕入原価法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定） |
| (2) 固定資産の減価償却の方法 | |
| ① 有形固定資産（リース資産を除く） | 定率法（ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（附属設備を除く）については定額法）
なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。
建物……………15～40年
工具器具備品……2～8年 |
| ② 無形固定資産（リース資産を除く） | 定額法
なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。 |
| ③ リース資産 | 定額法 |
| (3) 繰延資産の処理方法 | |
| 社債発行費 | 社債の償還期間において定額法により償却しております。 |
| (4) 引当金の計上基準 | |
| ① 貸倒引当金 | 売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。 |
| ② 店舗閉鎖損失引当金 | 閉店を決定した店舗について、店舗の閉鎖に伴い発生する損失に備えるため、将来発生すると見込まれる損失額を計上しております。 |
| (5) ヘッジ会計の方法 | |
| ① ヘッジ会計の方法 | 繰延ヘッジ処理 |
| ② ヘッジ手段とヘッジ対象 | ヘッジ手段……金利スワップ取引
ヘッジ対象……借入金利息 |
| ③ ヘッジ方針 | 金利変動リスクをヘッジする目的で行っております。 |
| ④ ヘッジ有効性評価の方法 | ヘッジ対象とヘッジ手段のキャッシュ・フロー変動の累計を比較し、両者の変動額等を基礎にして判断しております。 |
| (6) 消費税等の会計処理 | 消費税等の会計処理は税抜方式によっております。 |

2. 貸借対照表に関する注記

(1) 担保資産及び担保付債務

建物	692,004千円
土地	573,649
敷金及び保証金	106,886
定期預金	617,066
投資有価証券	132,515
計	2,122,122
短期借入金	594,496
長期借入金（1年内返済予定額を含む）	3,305,176
計	3,899,673

(2) 有形固定資産の減価償却累計額 3,654,790千円

(3) 偶発債務

従業員の金融機関からの借入に対し債務保証を行っております。

従業員（1名） 135千円

(4) 関係会社に対する金銭債権

未収入金 667千円

3. 損益計算書に関する注記

関係会社との取引高

営業取引以外の取引高 7,296千円

4. 株主資本等変動計算書に関する注記

(1) 発行済株式の総数に関する事項

株式の種類	当事業年度期首の株式数	当事業年度増加株式数	当事業年度減少株式数	当事業年度末の株式数
普通株式	8,916株	882,684株	一株	891,600株

(注) 発行株式数の増加は、取締役会の決議に基づき普通株式1株につき100株の割合をもって株式分割を行ったことによる増加分です。

(2) 剰余金の配当に関する事項

① 配当金支払額

該当事項はありません。

② 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期になるもの

該当事項はありません。

(3) 当事業年度末日における新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

5. 金融商品に関する注記

(1) 金融商品の状況に関する事項

① 金融商品に対する取組方針

当社は、資金運用については預金等の安全性の高い金融資産に限定し、また、資金調達については、設備投資計画に照らして、必要な資金は銀行借入による方針であります。デリバティブは、借入金の金利変動リスクの回避を目的としており、投機的な取引は行わない方針であります。

② 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である売掛金、長期貸付金は、取引先等の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては、適切な債権管理を実施する体制としております。

投資有価証券である株式は、市場価格の変動リスクに晒されておりますが、それらは業務上の関係を有する企業の株式がほとんどであり、当該リスクに関しては経理部において定期的に時価や発行体（主として取引先企業）の財務状況等を把握する体制としております。

敷金及び保証金は、主に店舗の賃貸借契約による差入預託保証金であります。当該敷金及び保証金については、当社の規則に従い、適切な債権管理を実施する体制としております。

営業債務である買掛金、未払金は、そのほとんどが1年以内の支払期日であります。

社債、借入金、リース債務及び割賦債務のうち、短期借入金は主に営業取引に係る資金調達であり、社債、長期借入金、リース債務及び割賦債務は主に設備投資及び投融資に係る資金調達です。変動金利の借入金は金利の変動リスクに晒されますが、長期借入を変動金利で実施し、その支払金利の変動リスクを回避して支払利息の固定化を図る場合には、ヘッジの有効性の評価において金利スワップ取引の特例処理の要件を満たしていることを前提に、個別契約ごとに金利スワップ取引をヘッジ手段として利用することを原則としております。

デリバティブ取引の執行・管理については、取引権限等を定めた当社の規則に従い、また、デリバティブ取引の利用にあたっては、いずれも信用度の高い国内の金融機関に限定しており、契約不履行による信用リスクはほとんどないと判断しております。

③ 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

平成26年3月31日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（注）2. 参照）。

	貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	895,241	895,241	—
(2) 売掛金	232,080	232,080	—
(3) 投資有価証券	190,340	173,920	△16,420
(4) 敷金及び保証金	170,631	166,289	△4,341
(5) 長期貸付金	28,179		
貸倒引当金(*)	△25,000		
	3,179	3,148	△30
資産計	1,491,474	1,470,681	△20,792
(1) 買掛金	173,446	173,446	—
(2) 短期借入金	594,496	594,496	—
(3) 未払金	203,244	203,244	—
(4) 未払法人税等	9,702	9,702	—
(5) 未払消費税等	19,216	19,216	—
(6) 社債 (1年内償還予定額を含む)	427,100	413,826	△13,273
(7) 長期借入金 (1年内返済予定額を含む)	42,439	42,439	—
(8) リース債務 (1年内返済予定額を含む)	35,177	33,463	△1,714
(9) 長期未払金 (1年内返済予定額を含む)	16,471	15,856	△614
負債計	1,521,295	1,505,693	△15,602
デリバティブ取引	3,447	3,447	—

(*) 長期貸付金に個別に計上している貸倒引当金を控除しております。

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項
資 産

(1) 現金及び預金、(2) 売掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

これらの時価について、株式等は取引所の価格によっており、債券は取引所の価格または取引金融機関等から提示された価格によっております。

(4) 敷金及び保証金

敷金及び保証金（返還時期が確定しているもの）については、将来キャッシュ・フローを事業年度末から返還までの見積り期間に基づき、国債の利回り等、適切な指標に信用スプレッドを上乗せした利率で割り引いた現在価値により算定しております。

(5) 長期貸付金

長期貸付金の時価は、与信管理上の信用リスク区分ごとに、元利金の合計額を同様の新規貸付を行った場合に想定される利率で割り引いて時価を算定しております。

負債

- (1)買掛金、(2)短期借入金、(3)未払金、(4)未払法人税等、(5)未払消費税等
これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。
- (6)社債、(7)長期借入金、(8)リース債務、(9)長期未払金
これらの時価は、元利金の合計額を、同様の社債の発行、新規借入、新規リース契約及び新規割賦契約を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。
- なお、1年内償還予定の社債は社債に、1年内返済予定の長期借入金は長期借入金に、1年内返済予定の割賦債務は長期未払金に含めております。

デリバティブ取引

(1)ヘッジ会計が適用されていないもの

区分	取引の種類	契約額等 (千円)	契約額等のうち 1年超 (千円)	時価 (千円)	評価損益 (千円)
市場取引以外の取引	金利キャップ取引	40,000	40,000	1	1
合 計		40,000	40,000	1	1

(2)ヘッジ会計が適用されているもの

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (千円)	契約額等のうち 1年超 (千円)	時価 (千円)
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 変動受取・固定支払	長期借入金	287,750	287,750	△3,446
合 計			287,750	287,750	△3,446

(注)時価の算定方法

取引先金融機関から揭示された価額に基づき算定しております。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区分	貸借対照表計上額 (千円)
非上場株式 (*1)	30,138
関係会社株式 (*1)	25,000
敷金及び保証金 (*2)	612,310
長期借入金 (*3)	3,334,830
長期未払金 (*4)	28,366

- (*1)これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「資産(3)投資有価証券」には含めておりません。
- (*2)敷金及び保証金については、残存期間を特定できず、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「資産(4)敷金及び保証金」には、含めておりません。
- (*3)長期借入金については、取引金融機関より返済の猶予を受けており、返済時期が未定であるため、時価を把握することが困難と認められることから、「負債(7)長期借入金」には含めておりません。
- (*4)長期未払金については、支払時期が未定であり、時価を把握することが困難と認められるため、「負債(9)長期未払金」には含めておりません。

6. 賃貸等不動産に関する注記

- (1) 賃貸等不動産の状況に関する事項
当社では、北海道その他の地域において、賃貸用の店舗物件（土地を含む）を有しております。
- (2) 賃貸等不動産の時価に関する事項

貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)
686,101	727,455

- (注) 1. 貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額であります。
2. 当事業年度末の時価は、固定資産評価額等を基礎に自社で算定した金額によっております。

7. 関連当事者との取引に関する注記

役員及び個人主要株主等

種類	会社等の名称	所在地	資本金又は 出資金 (千円)	事業の内容又は 職業	議決権等の所 有(被所有)の 割合 (%)	関連当事者と の関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
役員	藤田博章	—	—	当社代表 取締役	(被所有) 直接18.9	債務被保証	資金借入に 対する債務被 保証 (注1)	136,806	—	—
役員が議 決権を有 している 会社等	フジタ産 業株式有 限会社	北海道 北見小 樽市	45,000	ホームセン ター事業	—	商品の購入等	燃料等の購 入 (注2)	44,304	未払金	4,623
							不動産の賃 借 (注3)	780	前払費用	136
							その他 (注4)	5,561	未払金	309

取引条件及び取引条件の決定方針等

- (注) 1. 当社は金融機関からの資金借入に対して、当社代表取締役社長藤田博章より保証を受けております。なお、保証料の支払は行っておりません。
2. 燃料等の購入に係る取引条件は、一般の取引条件と同様であります。
3. 不動産の賃借については、近隣の賃貸借取引の実勢価格に基づき、交渉のうえ決定しております。
4. その他は主に店舗設備の保守に係る取引であり、取引条件は、一般の取引条件と同様であります。
5. 取引金額には消費税等を含めておりません。期末残高には消費税等を含めております。

8. 1株当たり情報に関する注記

- (1) 1株当たり純資産額 23円67銭
- (2) 1株当たり当期純損失 393円08銭

(注) 1株当たりの純資産額及び1株当たりの当期純損失は、当事業年度に行いました株式の分割が当事業年度の期首に行われたと仮定してそれぞれ算定しております。

9. 重要な後発事象に関する注記

当社は、平成26年4月17日開催の取締役会において、下記の無担保社債の全額について期限前償還を行うことを決議し、平成26年4月28日に繰上償還いたしました。

- (1) 繰上償還した銘柄及び発行日
- | | |
|-----------|------------|
| 社債の名称 | 発行日 |
| 第8回無担保社債 | 平成23年9月2日 |
| 第9回無担保社債 | 平成24年2月29日 |
| 第10回無担保社債 | 平成24年9月20日 |
| 第11回無担保社債 | 平成24年9月20日 |
- (2) 繰上償還額 427,100千円
- (3) 償還資金の調達方法 自己資金により充当
- (4) 償還による支払利息の年間減少見込額 1,332千円

計算書類に係る会計監査報告

独立監査人の監査報告書

平成26年6月3日

株式会社フジタコーポレーション

取締役会 御中

清明監査法人

指 定 社 員 業務執行社員	公認会計士	島 貫 幸 治 ㊞
指 定 社 員 業務執行社員	公認会計士	中 村 貴 之 ㊞

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、株式会社フジタコーポレーションの平成25年4月1日から平成26年3月31日までの第36期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書について監査を行った。

計算書類等に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から計算書類及びその附属明細書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に計算書類及びその附属明細書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、計算書類及びその附属明細書の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による計算書類及びその附属明細書の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、計算書類及びその附属明細書の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての計算書類及びその附属明細書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の計算書類及びその附属明細書が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類及びその附属明細書に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

監査役会の監査報告

監査報告書

当監査役会は、平成25年4月1日から平成26年3月31日までの第36期事業年度の取締役の職務の執行に関して、各監査役が作成した監査報告書に基づき、審議の上、本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

1. 監査役及び監査役会の監査の方法及びその内容

監査役会は、監査の方針、職務の分担等を定め、各監査役から監査の実施状況及び結果について報告を受けるほか、取締役等及び会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。

各監査役は、監査役会が定めた監査役監査の基準に準拠し、監査の方針、職務の分担等に従い、取締役、内部監査部門その他の使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、取締役会その他重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社及び主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。また、事業報告に記載されている取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他株式会社業務の適正を確保するために必要なものとして会社法施行規則第100条第1項及び第3項に定める体制の整備に関する取締役会決議の内容及び当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）について、取締役及び使用人等からその構築及び運用の状況について定期的な報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明いたしました。子会社については、子会社の取締役及び監査役等と意思疎通及び情報の交換を図り、必要に応じて子会社から事業の報告を受けました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書について検討いたしました。

さらに、会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（平成17年10月28日企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書について検討いたしました。

2. 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

- 一 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 取締役の職務に関する不正の行為または法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- 三 内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても指摘すべき事項は認められません。

(2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人清明監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

平成26年6月4日

株式会社フジタコーポレーション 監査役会

常勤監査役	藤田	俊樹	Ⓔ
社外監査役	丹治	敏男	Ⓔ
社外監査役	小柳	典子	Ⓔ

以上

株主総会参考書類

第1号議案 定款一部変更の件

1. 提案の理由

議決権を有しない単元未満株式についての権利を定めるため、定款第8条（単元未満株式についての権利）を新設し、以降の条数の繰り下げを行うものであります。

なお、現行定款第6条（発行可能株式総数）、第7条（単元株式数）につきましては、会社法第184条第2項及び第191条の規定に基づき、平成25年9月6日開催の取締役会において、平成25年10月1日を効力発生日として、発行可能株式総数を8,916株から891,600株に変更し、単元株制度を採用して1単元を100株とする旨の定款変更決議をしております。

2. 変更の内容

変更の内容は次のとおりであります。

（下線は変更箇所を示します。）

現 行 定 款	変 更 案
第1条～第7条 （条文省略） （新 設）	第1条～第7条 （現行どおり） <u>（単元未満株式についての権利）</u> 第8条 当会社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができない。 1. <u>会社法第189条第2項各号に掲げる権利</u> 2. <u>会社法第166条第1項の規定による請求をする権利</u> 3. <u>株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利</u>
第8条～第41条 （条文省略）	第9条～第42条 （現行どおり）

第2号議案 取締役4名選任の件

取締役全員（5名）は本総会終結の時をもって任期満了となります。つきましては取締役4名の選任をお願いするものであります。

取締役候補者は、次のとおりであります。

候補者番号	ふりがな氏名 (生年月日)	略歴、当社における地位、担当 (重要な兼職の状況)	所有する株 当社の株式 の数
1	ふじ た ひろ あき 藤田博章 (昭和15年5月25日生)	昭和39年4月 日本レイヨン株式会社 (現ユニチカ株式会社)入社 昭和44年4月 フジタ産業株式会社入社専務取締役 昭和53年3月 有限会社ファミリーフーズ設立 代表取締役社長 昭和63年10月 フジタ産業株式会社代表取締役社長 平成2年2月 有限会社ファミリーフーズを株式会社 ファミリーフーズ(現当社)に組織変更 代表取締役社長(現任) 平成5年10月 株式会社フジックス設立代表取締役社 長(現任) 平成14年10月 フジタ産業株式会社取締役(現任) (重要な兼職の状況) 株式会社フジックス代表取締役社長 フジタ産業株式会社取締役	168,700株
2	ふじ た けんじろう 藤田健次郎 (昭和47年4月19日生)	平成10年7月 フジタ産業株式会社入社 平成12年6月 フジタ産業株式会社取締役 平成14年10月 フジタ産業株式会社代表取締役(現任) 平成22年6月 当社取締役 平成25年6月 当社取締役副社長(現任) (重要な兼職の状況) フジタ産業株式会社代表取締役	43,900株
3	し みず せい さく 清水清作 (昭和36年10月9日生)	昭和63年4月 株式会社藍屋(現株式会社すかいら一 く)入社 平成7年12月 当社入社 平成13年1月 当社執行役員 管理部長 平成13年9月 当社取締役 経理部長 平成17年6月 当社常務取締役 平成20年8月 当社専務取締役 経理・総務管掌(現任)	5,800株
4	うわ の さとし 上野哲 (昭和36年6月22日生)	昭和55年4月 厚木自動車部品株式会社(現ユニシアジ ェーカーシーステアリングシステム株 式会社)入社 昭和58年1月 当社入社 平成12年11月 株式会社フジックス取締役(現任) 平成13年1月 当社執行役員 第IV事業部長 平成13年9月 当社取締役 第IV事業部長 平成15年7月 当社取締役 東日本事業本部長 平成17年5月 当社取締役 開発事業部長・北海道MD 事業部長 平成18年4月 当社取締役 フードサービス事業本部長 平成19年4月 当社取締役 東日本MD・外食事業部長 平成19年8月 当社常務取締役 飲食部門管掌(現任)	4,800株

(注) 各候補者と当社との間には、特別の利害関係はありません。

第3号議案 監査役1名選任の件

監査役藤田俊樹氏は、本株主総会終結の時をもって辞任されますので、監査役1名の選任をお願いするものであります。なお、選任されます監査役の任期は、当社定款の定めにより、前任者の任期満了の時までとなります。

また、本議案につきましては、監査役会の同意を得ております。

監査役候補者は、次のとおりであります。

ふりがな氏名 (生年月日)	略歴、当社における地位 (重要な兼職の状況)	所有する 当社の株 式の数
やまもとともゆき 山本智之 (昭和29年11月14日生)	昭和48年4月 日本軽金属株式会社入社 昭和57年7月 当社入社 平成4年4月 当社ミスタードーナツ事業部長 平成4年5月 当社取締役 平成13年9月 当社取締役 総務部長 平成14年6月 株式会社フジックス監査役 平成17年5月 当社取締役 総務部長(現任) 平成21年6月 株式会社フジックス監査役(現任)	11,800株

(注) 候補者と当社との間には、特別の利害関係はありません。

第4号議案 補欠監査役1名選任の件

平成25年6月27日開催の第35回定時株主総会において補欠監査役に選任された菊池廣之氏の選任の効力は本総会の開始の時までとされており、法令に定める監査役の員数を欠くことになる場合に備え、改めて補欠監査役1名の選任をお願いするものであります。

なお、本選任につきましては、就任前に限り、監査役会の同意を得て、取締役会の決議によりその選任を取り消すことができるものとさせていただきます。

また、本議案につきましては、監査役会の同意を得ております。

補欠の監査役候補者は、次のとおりであります。

ふりがな氏名 (生年月日)	略歴 (重要な兼職の状況)	所有する 当社の株 式の数
きくちひろゆき 菊池廣之 (昭和17年3月6日生)	昭和39年4月 野村證券株式会社入社 昭和47年7月 極東証券株式会社入社 昭和47年11月 極東証券株式会社代表取締役副社長 昭和54年12月 極東証券株式会社代表取締役社長 平成24年4月 極東証券株式会社代表取締役会長(現任) (重要な兼職の状況) 極東プロパティ株式会社代表取締役社長	一株

- (注) 1. 候補者と当社との間には、特別の利害関係はありません。
2. 候補者の菊池廣之氏は、補欠の社外監査役候補者であります。
3. 候補者の菊池廣之氏を補欠の社外監査役候補者とした理由は、同氏の経営者としての豊富な経験と見識を生かして、客観性や中立性を重視した業務監査が期待できるためであります。

以上

メ モ

株主総会会場ご案内図

場 所 : 北海道苫小牧市表町四丁目3番1号
グランドホテルニュー王子 2階 若草の間
TEL 0144-31-3111

最寄駅 : JR苫小牧駅下車 南口より徒歩5分

